

神樹の会会報

No. 35

平成 7 年 5 月 23 日

発行所：神樹の会

発行人：水野 整 一

(事業所)

本部事務所(六甲作業所内)
〒657 神戸市灘区備後町3丁目2番22号 ☎821-1533
六甲作業所、東部デイサービス
〒657 神戸市灘区備後町3丁目2番22号 ☎821-1533
明芳デイサービス
〒654 神戸市須磨区大田町6丁目4-4 ☎735-8835
垂水作業所
〒655 神戸市垂水区星陵台4丁目4番45号 ☎782-9675
福祉の店“いたやど”
〒654 神戸市須磨区大黒町2丁目2-12 ☎733-2477

誰もが初めて経験した直下型大震災の後、誰もが安全な場所や避難場所へ急ぐ中、障害のある人を抱えた家庭はどのように対応していたのであろうか。これらの貴重な意見をもとにし、緊急時のことを考えていけたらと願っている。

一ヶ月の間で困ったこと

医療関係

- * かかりつけの医院・病院と連絡がとれず、どこに連れていったらよいかわからなかった。
- * 痙攣の薬が切れていて病院にいったがカルテが取り出せず薬をもらえなかった。普段から薬の名前・量を知るべきだった。
- * 市民病院まで学校の先生の厚意によりバイクで薬を取りにいってもらった。
- * 医療器具(酸素・カテーテル等)や滅菌水を常時必要としていた。

- * 障害者を連れて住める場所やコーナーが欲しかった。
- * 避難所に近かったので結構情報が入った。その反対に家でじっとしている人には何も情報が入ってこなかった。
- * とにかく情報が欲しかった。
- * 自宅が全壊したので避難所へいったがいっぱいで入れず、子どもと共に車の中で寝泊まりをしていた。
- * 全壊・全焼で障害者のための仮設住宅やあらゆる住宅に申し込むがもっとも当たらず、家族バラバラで避難生活をしている。
- * 避難しようとして玄関をでたら道路状態が悪く車椅子が通れなくなっていて困った。付近の人に何度も声を掛けて助けてもらった。
- * 施設に入っていたお陰で、危険な自宅に連れて帰らなくてよかったことにホッとしている。在宅していたら方角が1のことがあったかも知れない。

お風呂・水関係

- * 親と同性の子しか公衆の風呂に入られず、介助の必要な息子を母親が付き添っての入浴ができなかった。
- * 同性でも時間的、場所的制限があつて大変だった。
- * 家族風呂や移動入浴車があるという情報も一部の人が知らなかった。
- * 水汲みでも子供を一人にできないので連れていった。
- * しあわせの村のお風呂に入りに行ったが子供を寝かせる場所がなかったり、風呂場の椅子、おけもなく重たい障害者を抱いて大変だった。

環境(衣食住、避難所に関して)

- * テントの中・避難所で暮らしていたので肺炎になった。体温調節ができず暖房が欲しかった。
- * 大部屋で共同生活ができない(おびえる、眠らない、奇声をあげる、おむつ交換)ので危険な家に帰った。

平成 7 年 5 月 25 日(日)
日時 平成 7 年 6 月 25 日(日)
午後 1 時 30 分より
場所 県私学会館 (JR元町駅北)
会費 4000円 総会後簡単な会食があります

総会

このゆびとまれ..

「草木も眠る...」
たに まもる

「ひい〜やあ〜」寝床の足元にうずくまった私が激震の中で聞いた、もう何とも形容しがたい細かい母の悲鳴。震災体験の始まりだ。人生観が変わった。一寸先は闇というが、下らないことに時間を費やしてはだめでもっとエンジンヨイした日々を送らなくてはと切実に思った。そこで、転んでも只では起きない私が友生での避難生活で拾ったネタから一つある夜、目が覚めた。横のおっちゃんも起きていた。

障害者生活

- * 自宅でもうにか住めたので避難しなかった。そのため救援物資の配給を受けることができない。スーパーで自由に水や食料品が買えるようになるまで困った。
- * 地域の学校へ避難したが、満員ですと言われ遠い他の学校へ...。障害者を抱えて大変だった。
- * 家は何とか住めるのに、避難所で障害者を一人で置いておくわけにいかず家をかたづけられなかった。
- * 避難所のトイレは和式で、介助が大変だった。
- * とっさだったので車椅子を持ち出せなかったので困った。
- * 避難所によって障害者の対応に差がある。身動きが取れなかった。
- * ボランティア
- * 親が用事をするあいだや通院するとき障害者と一緒に行けるボランティアが欲しかった。
- * こういう時こそ一時預かりがあったらよかった。
- * 大きい子をお風呂に入れるのに子供と同性のボランティアが欲しかった。
- * ボランティアに来て頂いたのはありがたかったのですが、こちらの気づかない間にQ.電話を何十万も使われてしまいました。
- * 手伝ってもらった仕事では納入先に受け入れてもらえず、今仕直しています。

職場は

- * 通勤(出勤)できないことが、次期の雇用契約にひびかないか心配だった。
- * 自力で通勤していたが会社がだめになり「今度から遠くなるがよかったら」と言われ、ことわったら失職しかねないので親が付き添って通勤している。

適切な世帯二小を

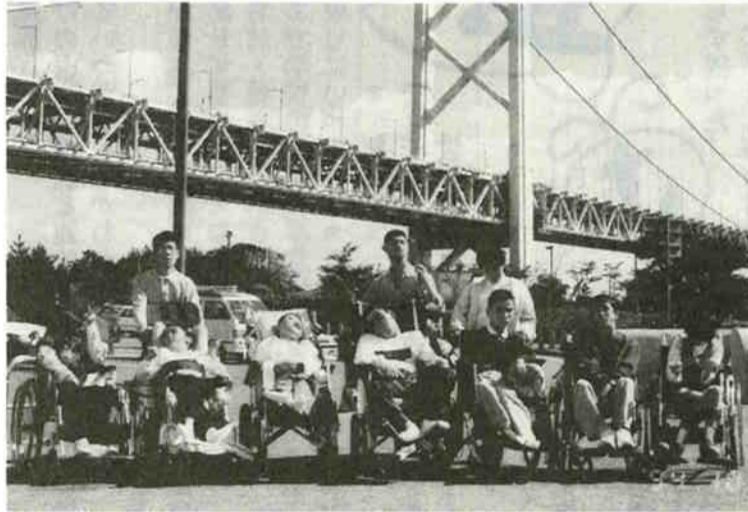
- * 公的機関から電話・訪問で困ることはないか問い合わせがあった。
- * 公的機関から何の問い合わせや確認もなく、とても不安だった。
- * 障害者と二人暮らしなので相談者もなく、いざという時公的機関からの適切な指示がぜひ欲しいと思った。どこに逃げたらよいか聞いても誰もいい加減だった。
- * 非常事態に最低の生活や医療で何とかなるといふ場所とかセンターが近くにあるべきだと痛感した。

愛をいっぱい 探そう 生きがい

ありがとう

春の人事異動により、市民生局心身障害福祉室長の坂本大祐氏がご転任になられ後任に松尾 弘氏が着任されました。又、相談課長は竹山昭治氏から大下知則氏（前育成課長）へと替われ、吉岡 崇氏が育成課長として着任されました。

六甲作業所、垂水作業所、東部デイサービス、明芳デイサービスの各所は、震災の被害に遭っていましたが、多くの方々の協力で再開できる運びになり、幸いにも四月には新利用生を迎えることができました。倒壊した明芳デイサービスも現在は場所を借りて行っていますが、明芳病院長の厚意で又、神戸市の援助で再建する予定です。



▲垂水養護学校高等部卒業生のみなさん

新しい未来に向かって

石川 敬

このたび神戸市教育委員会へ転勤になりました。

友生養護学校にお世話になった二年間神樹の会の皆さんには、格別のお世話になり有難うございました。厚くお礼申し上げます。

この度の未曾有の震災では、精神的にも物質的にも大変な打撃を受けられたことと思います。もう四か月も立ちますが、共に経験したことを生かし、本当に大切なものが何かをみつめ、新しい未来に向かっていきたいと思えます。

今後、友生養護学校で学ばせてもらったことを教訓にし、頑張りたいと思えます。神樹の会のますますのご発展を祈ります。
(前友生養護学校校長)



▲友生養護学校高等部卒業生のみなさん

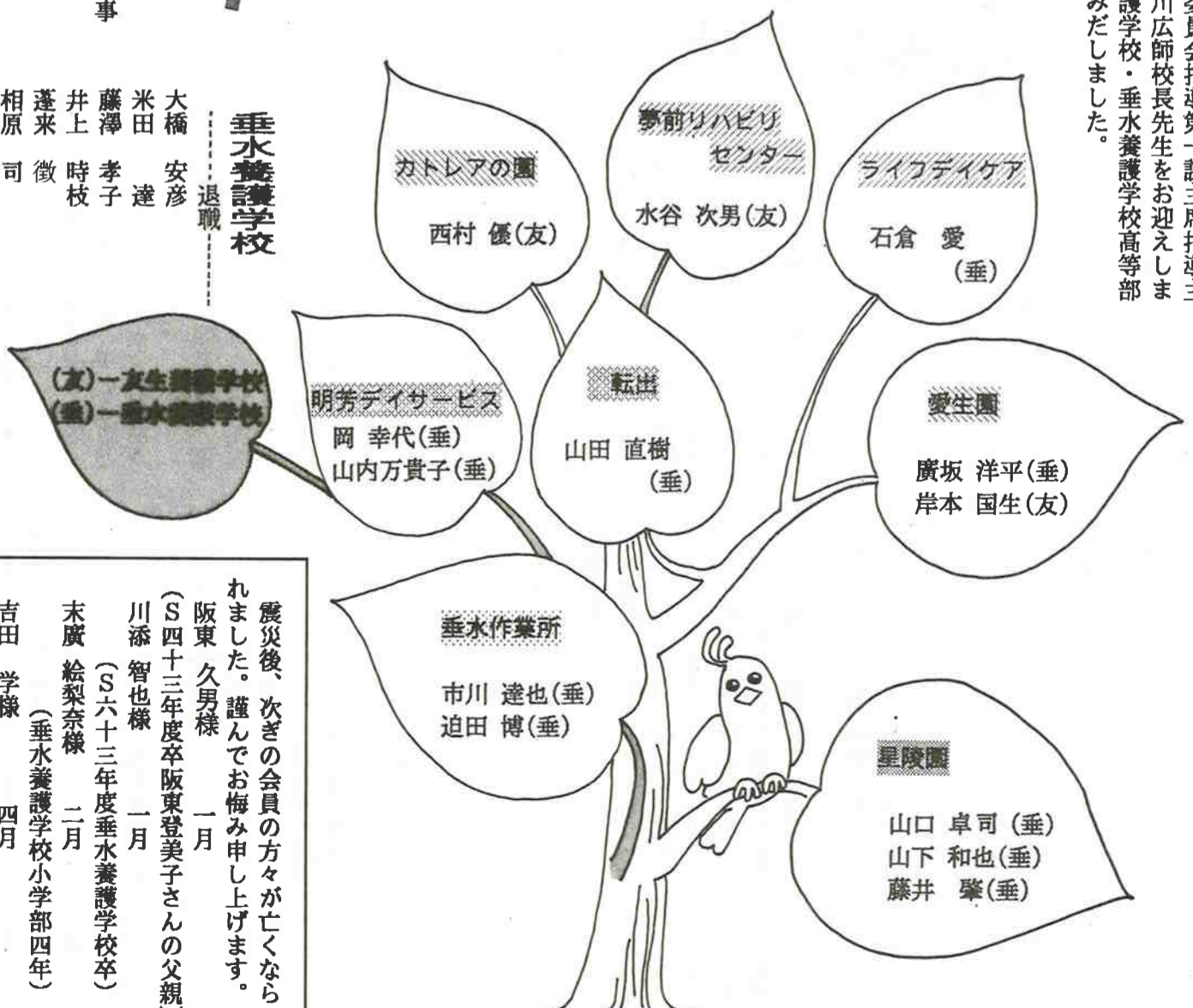
石川 敬友生養護学校校長が教育委員会指導第一課主席指導主事として転任になられ、新しく中川広師校長先生をお迎えしました。又、去る三月には、友生養護学校・垂水養護学校高等部の卒業生十三名は新しい道へと歩みだしました。

友生養護学校

- 退職**
好田 路得子
雪浦 郁子
- 転職**
石川 敬 指導第一課主席指導主事
藤田 京子 鈴蘭台中学校
横山 厚子 向洋中学校
木下 尚子 鷹取中学校
木本 真弓 本多聞中学校
山田 優 北五葉小学校
本庄 雅美 六甲アイランド小学校
坂上 結子 港島小学校
奥野 和子 竜が台幼稚園
荻原 麻由 星陵台中学校
藤城 恵美 榎野台小学校
谷水 弘尚 星和台小学校
柳田 幸恵 小部幼稚園
西村 正彦 垂水養護学校

垂水養護学校

- 退職**
大橋 安彦
米田 達
藤澤 孝子
井上 時枝
蓬来 徴
相原 司
- 転出**
長谷 照彦 鷹匠中学校教頭
波越 純子 六甲山小学校教頭
長元 千洋 友生養護学校
岡田 行夫 鶴越小学校
笠井 孝子 若宮小学校
久保 恭子 夢野小学校
西村 浩子 湊山小学校
山本 敦子 若菜小学校
阪井 純子 あづま幼稚園
杉本 達也 雲雀丘中学校
喜好 順子 友生養護学校
森本 隆彦 青陽高等養護学校



あとがき

青葉が目にしみ、薫風さわやかな季節が回っていますが、会員の皆様、震災の跡かたづけはもう済まれましたでしょうか。今号は震災後一か月の間に困ったこととアンケートを頂きました。ご協力有難うございました。

(矢野 西村 小泉 田中 金沢 日高 中野 宮脇)

震災後、次ぎの会員の方々が亡くなられました。謹んでお悔み申し上げます。
阪東 久男様 一月
(S四十三年度卒業阪東登美子さんの父親)
川添 智也様 一月
(S六十三年度垂水養護学校卒)
末廣 絵梨奈様 二月
(垂水養護学校小学部四年)
吉田 学様 四月
(垂水養護学校小学部四年)
岡田 泰輔様 四月
(平成六年度垂水養護学校卒)